

スマート・フードチェーンシステムの推進に向けた論点整理

スマート・フードチェーンシステムの円滑な推進に向けて、協議会等での構成員の皆様からのご意見等の論点を整理し、事務局案を作成しましたので議論の参考に願います。

- ◆ 平成28年度アクションプランでの各省ヒアリングや重要課題専門調査会での論点
 - ✓ 次世代育種システムについて、海外ニーズに対しての普及システムや知財戦略を考える必要あり
 - ✓ 遺伝子操作が伴うN B T等への社会的受容に向けた取組みの検討
 - ✓ 機能性農林水産物・食品のエビデンス取得や地域資源の発掘等付加価値の高い商品化への販売戦略等の構築
 - ✓ 世界的規模での資源の減少を踏まえ、様々な種類や国際展開も視野に入れた技術開発が必要

◆ 事前に頂いた構成員からのコメント(要約)

システム全体を機能させるための作業手順やルール、情報等の標準化の検討

- ✓ T P P 対策を事例とした新たな研究開発テーマや対象分野（畜産）の検討
- ✓ 輸出対策について、オールジャパンでのマーケティング戦略や専門家による海外ニーズの市場調査等が必要
- ✓ 次世代育種技術では、高い専門性を持つ地域の試験場や中小の種苗会社が最先端の研究成果や研究開発プラットフォームにアクセス可能とするなど、民間でも利用可能な技術とし、日本の種苗産業等全体の底上げを図る。
- ✓ 病害虫抵抗性や消費期限の延伸など顧客視点での「農作物の高付加価値化」の定義並びに評価のパラメーターを明確化
- ✓ 機能性分野ではコホート研究などとの連携が必要（先制医療/個別化医療）
- ✓ 未利用資源（深海魚等）の食料原料化及び農作物の食品以外への転用など資源の利活用範囲の拡張を検討

[※コメント全般については、別表参照]



『スマート・フードチェーンシステムの具体的な進め方及び検討のポイント』（事務局案）

- 育種、加工・流通、高付加価値化等に係る要素技術を繋ぎ、システム（バリューチェーン）を有効に廻すための施策の検討
 - ex. システムを機能するための作業手順やルール、情報等の標準化
- スマート・フードチェーン形成のための府省連携が必要な情報プラットフォームや経営支援ツール等の技術の検討
- 種苗ビジネスの強化・支援
- 重点化してきた様々な技術分野の中でも、T P P 対策として特に注力すべき技術開発やその技術の社会実装に必要な施策の検討
 - ex. 畜産・水産分野、海外市場をターゲットとしたオールジャパンでのマーケティング戦略
- 気候変動等に対応した技術の開発
 - ex. 地球温暖化に対応した育種素材や生産技術、病害虫対策
- 他のシステムとの連携の可能性
 - ex. 自動走行システムとの基礎技術の共有